

日野市立潤徳小学校 国語

令和6年度第5学年国語学力調査結果(設問正答率)

正答率(%)	教科総合	基礎	応用	選択式	短答式	記述式	知識・技能	思・判・表
本校	61.9	66.3	40.1	65.2	70.0	29.8	68.2	56.6
全国	62.1	66.4	40.8	64.5	71.7	31.4	68.9	56.4

令和6年度第5学年国語学力調査結果(単元別正答率)

	単元1	単元2	単元3	単元4	単元5	単元6	単元7	単元8	単元9
	言葉の 特徴や 使い方	漢字の 読み	漢字の 書き	情報の 扱い方	言語 文化	聞く こと	説明的 な文章	文学的 な文章	活用
本校	73.6	83.2	56.8	37.2	72.7	76.9	35.5	56.7	37.6
全国	68.7	83.7	59.8	43.8	78.4	76.1	34.9	55.1	41.0
1組	72.2	81.1	53.3	40.0	63.3	76.0	37.8	52.2	36.7
2組	75.6	83.3	62.2	43.3	66.7	76.7	38.9	60.0	31.7
3組	73.3	86.7	57.8	30.0	76.7	79.3	35.6	53.3	41.7
4組	73.1	81.7	53.8	35.5	83.9	75.5	30.1	61.3	40.3

学力調査(5年)の結果の分析

○国語への学びに向かう力

- ・自身がもっている言語能力を生かして、要約したり、感想を書いたりする力をつけていく必要がある。
- ・質問したりアドバイスし合ったりするなど、思いや考えを伝え、周りの人たちに進んで交流する意欲が低い。
- ・友達が書いた文章を読んで、自分にはない新しい考えを取り入れようとする力が低い。
- ・多く知識を取り入れようとする学習意欲が低い。
- ・学習環境が整っておらず、自分で学習計画を立てて学習したり、継続して学習したりする習慣がない。

○話す・聞く能力

- ・話全体の大体をとらえ、話し手の意図をくみ取る能力が高い。

○書く能力

- ・報告文の下書きを基に、どんな工夫がされているかを読み取る能力が低い。
- ・文章を読み取った後に、情報を取捨選択して、要約する力が弱い。

○読む能力

- ・文学的文章については登場人物の心情が読み取れているが、説明的文章については筆者の考えを読み取る力が弱い。
- ・説明的文章の構成を捉える力が弱い。

○言語についての知識・理解・技能

- ・漢字の読み書きの正答率が低い。
- ・漢字について、使い方を理解している。
- ・語彙力の定着が課題である。
- ・固有名詞や、日常生活で使う言葉の漢字の書きが弱い。
- ・慣用句を正しく使う問題の正答率が低い。
- ・漢字辞典の使い方についての正答率が平均より低い。
- ・漢字の熟語の構成についての理解が弱い。

○全体を通して

- ・自分たちの日頃の生活に身近に感じられる事柄については、問題を捉えて考えているが、接していない分野については、自分の考えを構築することが難しい。
- ・領域（問題）によって正答率に差が見られる。
- ・要約が苦手な傾向がある。
- ・漢字では、固有名詞を書くことや読むことが苦手である。
- ・言葉の使い方について、理解している。
- ・教科についての好き嫌いのアンケートでは、国語が好きな傾向が高かった。

授業改善の具体的な方策		
1・2年生	3・4年生	5・6年生
○国語への学びに向かう力	○国語への学びに向かう力	○国語への学びに向かう力
・「いつ」「どこで」「だれ」などの話型を掲示や話を聞くときのポイントの掲示など、掲示物の工夫をする。【学び】 ・国語科だけでなく、生活科の学習でも、国語科で学んだメモの取り方や要約の仕方、観察のポイント等を活用する。【学び】	・話型を掲示し、話すとき書くときに活用させる。【学び】 ・国語辞典や漢字辞典、Chromebookなどを活用して、疑問をすぐに調べられる環境づくりをする。【学び】 ・話し合い活動の時間を確保し、友達の考えや意見を伝え合い、意見を取り入れる時間をつくっていく。【学び】 ・学習計画を立てて、見通しがもてるようにしていく。【学び】	・話型を掲示しておくなど、掲示物の工夫をする。【学び】 ・国語辞典や漢字辞典、Chromebookなどを活用して、疑問をすぐに調べられる環境づくりをする【学び】 ・Chromebookのタイピングソフトを利用し、多くのローマ字を正しく使えるようにする。【学び】 ・話し合い活動の時間を確保し、友達の考えや意見を伝え合い、取り入れ合う時間をつくり、自身の考えを再構築していく時間をつくっていく。【学び】 ・学習計画を立てて、見通しがもてるようにしていく。【学び】
○話す・聞くことの指導	○話す・聞くことの指導	○話す・聞くことの指導
・正しい言葉遣いを教え、最後まで話をさせる。【学び】 ・ペア学習やグループ学習などを通して、自分の思いを「伝え合う場」を多く設ける。【いのち】【学び】 ・ペア学習やグループ学習などを通して、同意したり質問したりする「対話力」をつけさせる。【いのち】【学び】 ・読み聞かせの時間を増やし、聞く力を養う。【学び】	・日常から話す機会を設けて、その場に応じた正しい言葉で最後まで話をさせる。【学び】 ・「地域」の人材など、多様な人々と話す機会を設けることで、言葉遣いや思いを伝えるために必要な言葉や表現を学ばせる。【地域】 ・ペア学習やグループワークなど、自分の思いを「伝え合う場」を多く設ける。また、自分の考えを文章化して聞き手に分かるように話す練習をする。【いのち】【学び】	・日常から話す機会を設けて、正しい言葉で最後まで話をさせる。【学び】 ・「地域」の人材など、多様な人々と話す機会を設けることで、言葉遣いや思いを伝えるために必要な言葉や表現、インタビューなどの仕方を学ばせる。【地域】 ・ペア学習やグループワークなど自分の思いを「伝え合う場」を多く設け、臨機応変な言葉の選び方についても実践を通して学ばせる。また、自分の考えや意見を正しく伝える言葉を事前に学ぶ。【いのち】【学び】

○書くことの指導 ・日記、運動会や文化的行事の招待状づくりなどを通して書く機会を増やす。【地域】【学び】 ・文章の書き方の基礎である構成にそって書かせる。【学び】 ・話の順序を整理して書くために、短冊や Chromebook のミライシードのオクリンクを利用するなどして、構成する作文の書き方に慣れさせる。【学び】	○書くことの指導 ・「地域」の方々へ向けて手紙を書くことで、文章を書くことへの意識をもたせる。【地域】 ・行事等の招待状づくりなどを通して全体で参加して書く機会を増やす。【地域】【学び】 ・説明文に多く触れて、書いてある情報を取捨選択し、文章をまとめる書き方に慣れていくようにする。【学び】 ・文章を整理して書くために、Chromebook の Jamboard の付箋機能を利用するなどして、事実と考えを分けて構成をする作文の書き方に慣れていくようにする。【学び】	○書くことの指導 ・「地域」の方々へ向けて手紙やお礼状などを書くことで、思いを伝える文章を正しく書くことへの意識をもたせる。【地域】 ・行事等の招待状づくりなどを通して書く機会を増やす。【地域】【学び】 ・説明文に多く触れて、書いてある情報を取捨選択し、何が書かれているのかを把握し、要約する時間を確保する。【学び】 ・メモを整理して書くために、Chromebook の Jamboard の付箋機能、ミライシードのオクリンクやムーブノートを利用し、メモを整理する力を付け、書き分け方を学ばせる。【学び】
○読むことの指導 ・「いのち」を取り扱う題材と関連させて命や生きる喜びを感じさせる。【いのち】 ・図書の時間や朝読書の時間に、幅広い読書活動をする中で、想像を広げながら本を読み、楽しさを感じられるよう指導していく。【学び】 ・科学的読み物など、自然科学に関する読み物に親しむ機会を増やす。【学び】	○読むことの指導 ・「いのち」を取り扱う題材と関連させて命や生きるよるこびを感じさせる。【いのち】 ・図書の時間や朝読書の時間に、幅広い読書活動をする中で、文書に沿って深く考え想像を広げながら読書に取り組むよう指導していく。【学び】 ・科学的読み物など、自然科学に関する読み物に親しむ機会を増やす。【学び】	○読むことの指導 ・「いのち」を取り扱う題材と関連させて命や生きる喜びを感じさせる。【いのち】 ・図書の時間や朝読書の時間に、幅広い読書活動をする中で、いろいろな考え方に触れ、自分の世界を広げながら思考力を育てるようにしていく。【学び】 ・科学的読み物など、自然科学に関する読み物に親しむ機会を増やす。【学び】
○言語事項の指導 ・新出漢字の指導を丁寧に行い、ドリルやノートで繰り返し練習をさせる。【学び】 ・言葉あつめや詩の音読などを通して、語彙の幅を広げさせる。【学び】 ・読み聞かせの時間を増やすことで、語彙力を増やす。【いのち】【学び】	○言語事項の指導 ・Chromebook などを活用し、繰り返し、継続的に既習事項を振り返る。【学び】 ・指示語の話型を掲示しておくなど、掲示物の工夫をする。【学び】 ・家庭でも正しい指示語の使い方を学ぶ機会を設定していただくなど協力を依頼する。【地域】 ・視写を通して、正しい文章の書き方を身に付ける。【学び】 ・新出漢字の指導を丁寧に行い、繰り返し練習をさせる。【学び】 ・漢字辞典や国語辞典を活用し、多くの語彙に触れる時間を増やす。【学び】	○言語事項の指導 ・ローマ字や熟語など、Chromebook やドリルなどを活用して、繰り返し、継続的に既習事項を振り返るようにする。【学び】 ・指示語の話型を掲示しておくなど、掲示物の工夫をする。【学び】 ・視写を通して、正しい文章の書き方を身に付ける。【学び】 ・新出漢字の指導を丁寧に行い、繰り返し練習をさせる。【学び】 ・黙読など読書に親しむ時間を設け、これまで関心がなかった分野についての語彙を増やす。【学び】 ・漢字辞典や国語辞典を活用し、多くの語彙に触れる時間を増やす。【学び】

日野市立潤徳小学校 算数

令和 6 年度第 5 学年算数学力調査結果(設問正答率)

正答率(%)	教科総合	基礎	応用	選択式	短答式	記述式	知識・技能	思・判・表
本校	60.8	64.4	47.8	65.5	69.2	38.8	65.5	39.3
全国	61.8	65.9	47.0	68.3	67.5	39.2	66.9	38.4

令和 6 年度第 5 学年算数学力調査結果(単元別正答率)

	単元 1	単元 2	単元 3	単元 4	単元 5	単元 6	単元 7	単元 8	単元 9	単元 10	単元 11
	数	整数の計 算	小数・小数 の計算	分数の計 算	平面図形	立体図形	角	面積・体積	数量関係	表やグ ラフの 使い方	活用
本校	74.0	56.2	65.5	69.4	83.9	63.6	60.3	26.9	76.3	44.2	43.0
全国	77.5	53.4	61.9	75.4	82.1	61.7	61.7	37.5	79.3	49.0	42.3
1 組	69.2	58.3	66.0	73.3	83.3	51.7	63.3	31.7	72.2	45.0	41.7
2 組	70.8	56.7	64.0	66.7	78.3	61.7	66.7	26.7	75.6	35.0	43.3
3 組	78.3	66.7	68.0	73.3	88.3	71.7	53.3	28.3	85.6	50.0	50.0
4 組	77.4	43.5	63.9	64.5	85.5	69.4	58.1	21.0	72.0	46.8	

学力調査(5年)の結果の分析

○知識及び技能

- ・小数の計算は比較的できているが、小数の仕組みの理解には課題が見られる。
- ・指定された面積になる長方形を求める問題が全国平均より 13.5%下回っており、課題が見られる。
- ・数直線を正しく読み取る問題が全国平均より 7.8%下回っており、課題が見られる。
- ・□や○を使って数量の関係を式に表す問題が全国平均より 7.4%下回っており、課題が見られる。
- ・示された数値を基に折れ線グラフをかく問題が全国平均より 6.6%下回っており、課題が見られる。

○思考・判断・表現力等

- ・小数の乗法の計算を使って文章題に答える問題は、比較的できている。
- ・十の位までの概数でおよその代金の合計を答える問題が、全国平均より 2.6%下回っている。
- ・減法と除法の計算を使って文章題に答える問題が、A-D 層の差が大きく出ている。

○学びに向かう力、人間性等

- ・授業で習ったことはその日のうちに復習しているかという問いに対して、肯定的な回答をした児童が少なかった。特に、A-D の差が-23.4 だった。家庭学習では、苦手な教科を避ける傾向にあり、テレビをつけないで学習している児童は、全校平均より 7.5%下回っている。
- ・学習を始めたら他のことに気をとられないで集中しているかという問いに対して、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より 17.4%低かった。また、正しい姿勢で学習しているか、人の話を最後までしっかり聞いているかという問いに対する肯定的な回答も低かった。学習に向かう態度に課題があるといえる。
- ・教科の好き嫌いと教科に対する理解度が、どちらも A-D 層の差が各教科の中で最も大きく出ている。
- ・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする意欲の高い児童が多い一方で、意欲の低い児童も一定数いる。

授業改善の具体的な方策

1・2年生	3・4年生	5・6年生
○知識及び技能 ・かけ算九九の定着をより強固なものとするために、Chromebook のドリル教材（ドリルパーク）等を活用	○知識及び技能 ・授業時間外(朝学習や宿題等)で計算ドリルやChromebook のドリルパーク等を使用し、反復練習に取り組みせ、基礎学力の定着を図る。【学	○知識及び技能 ・日々の学習を進める中で、習熟度別学習集団や個々の児童の状況に応じて、関係する既習内容を振り返る時間を設けるようにする。既習事項の積み上げに課題がある児

し、九九の反復練習を行う。 【学び】 - 授業時間外（朝学習や宿題等）に課題に取り組みさせることで、基礎学力のさらなる定着を図る。【学び】【地域】 - 授業の終末に、本時の学習内容の理解度を確認する時間を設ける。【学び】 - Chromebook のドリル教材（ドリルパーク）や東京ベシックドリルを活用する。【学び】	び】【地域】 - 授業内でもできるだけ練習問題に取り組む時間を設け、定着を図る。【学び】 - 平均が下回っている「折れ線グラフをかく」ことについては、反復練習が必要だと考える。これは、Chromebook のドリルパーク上では練習問題が少ない。そのために、方眼紙等を利用し、繰り返し練習する必要があると考える。また、理科等他教科でも積極的にかく作業をしていく必要があると考える。 - グラフをかいたり、読み取ったりするためには、一目盛りの数値の正しい読み取りが必要となる。低学年から数直線（数の線）の習熟を図る。【学び】	童については、ヒントカードを用いて振り返りながら学習できるようにする。【学び】 - 学んだことを活用する場面をつくり、生きて働く学力が身に付くようにする。「グラフをかく」については、経験を積み重ねたり、目的に応じたグラフを選んでかき方を考えたりすることが大切である。視覚的に捉えられるグラフのよさを意識できるようにしたい。【学び】【いのち】 - 授業時間外（朝学習や宿題等）にプリントやドリルパークの課題に取り組みさせることで、基礎学力の定着を図る。課題が見られる「小数」や「分数」の計算に取り組みせ、基本的な計算に対する苦手意識をなくすことを目指す。【学び】【地域】
○思考・判断・表現等 - 問題文を正確に読み取らせることができるような工夫を行う。【学び】 （例）問題文にアンダーラインを引かせたり、問題場面を絵や図に表したりして、問題の構造を理解させるようにする。 - 自分の考えを説明する活動を取り入れ、友達との類似点や相違点に着目できる声掛けをする。【学び】	○思考力・判断力・表現力等 「図形」において、平均を下回っている。このことから、図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を理解できていない児童が多いのではないかと考える。これは前学年までの既習について振り返り、統合的に図形をみることができる力を育成する必要があると考える。【学び】	○思考力・判断力・表現力等 - 各学習集団の児童の習熟度に応じて、めあてを設定したり、見通しをもったり、解決したり、検討したりする場面の進め方や手立てを工夫する。例えば、スモールステップで進める、学び合いを取り入れるなどにより、習熟に時間がかかる児童も、自分なりの考えをもって解決に向かうことができるようにする。【学び】 「考えを説明する活動」を日々の授業の中で、できるだけ取り入れる。文章題に答える問題の理解に差がある。そのため、自分の考えをノートに書いたり、互いに伝え合ったりする場面を設定するとともに、根拠が見いだせないとき、図に表して視覚的に捉え直したり、関連する既習内容を挙げてみるなど、自分なりの手立てをもてるようにする。【学び】
○学びに向かう力 - 生活場面とのつながりが意識できるような課題や教材を活用する。【地域】 （例）模擬通貨の活用。 （例）具体物の活用。 10mm＝1cm、1L＝1000mL 等の単位関係の学習では、それぞれの大きさの具体物を用い、視覚的に理解できるようにする。 - 水の量を調べる学習では、生活科と関連を図るとともに、ますを用意し実際に活動を行う。【学び】 - 誰もが安心して発言できる算数の授業を実現する。【学び】 【いのち】 - 授業の終末で振り返りを行い、できるようになったことを価値付ける時間をとる。【いのち】	○学びに向かう力 - 授業の終末に、本時の学習内容を振り返る時間を設ける。そのことで、教師は、児童が本時で学んだことを見取ることができる。また、児童は今後、学んだことをどのように生かしていけるのか自分の考えを深める時間となる。 - できるだけ練習問題を解く時間を設ける。【学び】【いのち】	○学びに向かう力、人間性等 - 実際に具体物を用いたり、生活場面を取り上げたりすることで、活動の楽しさや数学のよさに気付けるようにする。【学び】【地域】 （例）体積の学習では、1cm³のブロックを実際に操作しながら考えることで、活動の楽しさを感じられるようにする。 （例）およその面積と体積の学習では、身近な土地を取り上げることで、興味をもって取り組み、数で表すよさに気付けるようにする。 - 習熟度別学習集団の実態に応じて、グループ活動を行うなど、学習を振り返り検討する場面を工夫し、どの児童もよりよい結果を求める態度を身に付けられるようにする。【学び】 - 表やグラフ、平均など、算数で学んだ内容を他の教科でも積極的に活用し、日常的に活用できるようにする。【学び】【地域】

日野市立潤徳小学校 理科

授業改善の具体的な方策	
3・4年生	5・6年生
○知識・技能 - 実験や観察を個人、またはなるべく少人数のグループで行うことで、1人あたりが実物に見たり触れたりしながら実験・観察に取り組む時間を増やし、知識・技能の定着を図る。【学び】 - 学校の周辺環境を生かした動植物の飼育、栽培、観察に取り組むことで、実際に触れる、見るといった機会を増やし、動植物の体のつくりに関する知識を定着させたり、観察技能を向上させたりする。【いのち】【地域】【学び】	○知識・技能 - 実験や観察の際に Chromebook を活用して拡充的な調べ学習を行ったり、教科書の豊富な動画コンテンツを視聴したりすることで、知識の定着の強化を図る。【学び】 - 各種顕微鏡を使って実際に観察したり、模型等の資料を活用したりすることで、動物の発生や成長、人や他の動物の体のつくりと働きについての知識の定着させたり、観察技能を向上させたりする。【いのち】【地域】【学び】
○思考・判断・表現 - 自然の事物・現象について追究する中で、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現することを重点とし、指導を展開する。【学び】 - 自然の事物・現象について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現することを重点とし、指導を展開する。【学び】	○思考・判断・表現 - 自然の事物・現象について追究する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することを重点とし、指導を展開する。【学び】 - 自然の事物・現象について追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現することを重点とし、指導を展開する。【学び】
○主体的に学習に取り組む態度 - 実物を見たり触ったりといった体験的な活動を通して、自然の事物・現象に進んで関わり、問題を見だし、見通しをもって追究していく態度を育成する。【学び】 - 植物の栽培や昆虫等の飼育、またそれらの観察といった体験的な活動を行うことで、身近な自然に愛着をもたせるとともに、「生物の構造と機能」、「生命の連続性」についての興味関心を高め、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。【いのち】【学び】	○主体的に学習に取り組む態度 - 教科書の豊富な動画コンテンツをはじめとする様々な資料にふれる活動を通して、自然の事物・現象に進んで関わり、問題を見だし、見通しをもって追究していく態度を育成する。【学び】 - 動物の発生や成長、人や他の動物の体のつくりと働きについて調べる活動を通して、生命を尊重する態度を養うとともに、「生物の構造と機能」、「生命の連続性」についての興味関心を高め、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。【いのち】【学び】

日野市立潤徳小学校 社会

授業改善の具体的な方策	
3・4年生	5・6年生
○社会的事象についての知識・技能 - 恵まれた地域資源を生かして、地域に根ざした校外学習や体験活動を通して、知識として定着させる。【学び】【地域】【いのち】 - 問題の意図を正確に読み取れるよう、国語など他の授業とも連携して授業をしていく。【学び】 - 教科書のグラフや表の読み取りとともに、自分たちで調べたことをノートや Chromebook 等にグラフや表にまとめる活動を取り入れる。【学び】【いのち】 - カードや Chromebook のドリル教材を活用して地図記号や昔の道具を覚えたり、お互いに問題を出し合ったりしながら、知識の定着を図る。【学び】 - 方位（東西南北）を教室内や校内で可視化したり、校外学習をするときに方位の確認をしたりして、方位を児童にとって身近なものにしていく。【学び】	○社会的事象についての知識・技能 - 地図の読み取りとともに、地図を活かした学習を展開していく。【地域】 - 日野市と他地域とのつながりについて考えさせることで自分の生活が社会の様々な分野と密接に関連していることに気付かせていく。【地域】【学び】【いのち】 - 様々な仕事が人々の役に立ち、その上で社会生活が営まれていることを実感させる授業を展開する。【いのち】 - 体験学習を大切にしながら授業を進め、理解を深めるようにする。【地域】【学び】 - Chromebook のドリル教材を活用して、知識の定着を図る。【学び】
○社会的な思考・判断・表現 - 教師側が視点をはっきりと定め、地域に根差した学習を計画的に進める。【地域】 - 既存の白地図に色を塗ることにとどまらず、実際に校外学習を行い地図と照らし合わせたり地図を描いたりする。	○社会的な思考・判断・表現 - 身近な社会的事象について、日野市から東京都、そして日本全体につなげる学習展開をしていく。【地域】 - 児童同士の対話や学び合いを通して知識・理解を広げていく工夫を授業の中で取り入れる。【学び】【いのち】

る学習を通して、思考・判断・表現力を育てる。【学び】 • 一般的な地図の読み取りに繋げるために、地域の学習から他の地域へと一般化させる。【学び】 • 学習していく中で、校外学習の体験を基に、学習したことを友達と協力してまとめ、発表させる。【学び】【いのち】【地域】	• 校外学習や体験学習、書籍などを基にして新聞やパンフレット、ポスターを作らせたり、それらを用いて発表し合ったりする活動を取り入れていく。【学び】 • Chromebook を使いながら学習してきたことをまとめ、友達と発表し合う活動を取り入れる。【学び】
○社会的事象への主体的な学び • 校外学習の体験を地域に目を向けるきっかけとし、自分の興味・関心を基にした主体的な学びの土台としていく。【地域】 • 友達と対話しながら、身の回りの課題を見つけ自分たちなりに解決していこうとする姿勢を身に着けさせる。【学び】 • セタや豆まきなど、昔から受け継がれてきた伝統について知る機会を設定する。【いのち】【地域】	○社会的事象への主体的な学び • 他の区市町村や各都道府県の社会事象を幅広く紹介し、自分の生活している地域を改めて見直していく。【地域】【学び】 • 自分の地域の歴史に目を向け、身近な文化財に触れたり調べたりすることで郷土に対する愛着をもつ。【地域】【いのち】

日野市立潤徳小学校 授業創造プラン＜4 教科以外＞

	児童の実態		学校としての改善策	
生活	・体験的な学習に意欲的に取り組んでいる。 ・植物や野菜を育てたり、校庭や公園の生き物やリトルホースに親しんだりすることで、世話の大切さ、自然やいのちの大切さを感じることができている。 ・大木島自然公園、浅川、校庭の様子などで、季節の移り変わりや場に応じて、友達と一緒に遊びを工夫している。 ・自分の成長を振り返ることで、いのちのつながりを感じ、自分の成長には多くの人に関わっていることに気付ける児童が多い。 ・幼稚園や保育園の子に喜んでもらうためにどうしたらよいか、楽しみながら知恵を出し合うことができる。 ・高幡不動尊のお祭りに行ったり、公園巡り、町探検をしたりして、地域で働いている人や季節の変化について共感することができている。 ・自分の作ったおもちゃを、友達と比較してどうするともっとよくなるか考えられる児童がいる一方でどのように取り入れるとよいか難しい児童がいる。		・活動や体験を楽しむことを大切に、もっと知りたい、もっと工夫をしたいという思いや願いを抱き、それらを膨らませながら身近な環境と関わり、達成感や充実感を味わえるような深い学びになるような指導過程を作成する。【学び】 ・植物や野菜の観察、虫の飼育を通して、関わりたいという思いをもち、責任をもって大切に育てることができるようにする。【いのち】 ・身近な地域の公園の遊び、校庭の様子などを通して、季節の移り変わりを感じ、発見した気付きを発表する授業を行う。【地域・学び】 ・自分の生い立ちを調べる学習は、自分の育った環境にも目を向け、自分を支えてくれた人に感謝の気持ちを伝えられるような機会をつくる。【いのち・学び】 ・幼稚園や保育園の子供に潤徳小学校のよいところや学校生活について教えるためには、保育園、幼稚園と小学校の違いを園児に分かりやすく伝えるにはどうすればよいか考えさせる。【学び】 ・2年生「うごくうごくわたしのおもちゃ」では、それぞれが知恵を出し合い、より楽しい遊びになるように試行錯誤させる。1年生に分かりやすく伝えるにはどうすればよいか考えさせる。【学び】 ・高幡不動尊のあじさいまつり、きくまつりや町探検を通して地域に愛着をもつ機会をつくり、地域の人や場所に自分から関わろうとしたり、分かったことを発表したりする。【地域・学び】	
音楽	低学年	高学年	低学年	高学年
	・歌うことや演奏することに興味があり、楽しみながら学習に取り組む児童もいる。 ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの演奏では、技術的な個人差が大きい。 ・学習したことを基に、音楽づくりに楽しんで取り組んだり、友達の作ったものを一緒に表現したりしている。	・毎時間の授業では、器楽の練習に意欲的に取り組む傾向があるが、中には基礎基本が身につけていないため困り感のある児童もいる。 ・歌唱の授業では、楽しみながら歌う児童が多いが、高音の声が出ず、苦労している子もいる。 ・友達と意見を交流しながら音楽づくりに取り組んでいる。	・児童の興味・関心が高まる教材や学習活動を工夫して、一人一人が楽しみながら学習に取り組むことができるように支援していく。【学び】【いのち】 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの授業では、一人一人を見取る時間をとるとともに、児童が互いに学び合う活動を取り入れる。【学び】 ・苦手な児童でも取り組めるよう、選択肢を用意したり、友達の意見を参考に表現できるようにしたりする。【学び】【いのち】	・器楽の学習では、必ず一人一人を見取る時間を取り、児童の困り感を改善できるよう支援していく。【学び】【いのち】 ・歌唱の学習では、パート練習を取り入れ、児童が主体的に活動できるように支援する。また、音程の難易度だけに捉われず、歌詞の内容や曲調にふれ、曲の素晴らしさを感じ取らせる。【学び】【いのち】 ・意見交流の中で、様々な表現に触れ、表現の良さを言語化することで、自身の表現の幅を広げられるようにする。【学び】【いのち】

図画工作	・低学年では表現活動に意欲的に取り組む児童が多く、高学年でも、新しい道具や表現方法に興味関心をもって取り組む児童が多い。 ・全体的に手順が決まったことは取り組めるが、自分で考えて表現することには苦手意識をもっている。 ・技能面では個人差が大きい。高学年でも、紐を結べない、線がまっすぐ引けない児童もあり、手先を使った生活経験が少ない様子が伺える。	・児童の興味関心に合わせて、様々な表現方法を体験できるような題材を設定する。指先を使う活動や、定規を使ったりひもを結んだりする活動を取り入れる。 【学び】 ・低学年では、生活科と関連を図り、多摩動物公園・高幡不動尊見学後の絵画製作や消防写生会に取り組むこと、全学年では、夏休みに地域のポスターコンクールに参加することなど地域の良さを生かして児童の意欲を高める。 【学び】【地域】 ・めあてを明確にするとともに、児童の実態に合わせて基底材等を用意して安心して取り組めるようにする。 【学び】 ・一人一人の活動を励ますと共に、児童がお互いの作品を認め合える時間を設け、自信をもって活動できるようにする。 【いのち】【学び】 ・木工具や刃物を使用する際には、安全に配慮し、使い方に慣れる時間を十分に確保する。 【いのち】【学び】
家庭科	・家庭内の仕事を見つめる機会が少なく、家庭科で学習したときに、両親がたくさんの仕事をしている事に気付く児童が多い。 ・「お手伝い調べ」や「校内の涼しさ調べ」などのように、自分で調べてまとめたり写真を撮ったりする活動に好んで取り組む児童が多い。 ・できなかったり、失敗したりすると消極的になる児童が多い。 ・家庭では料理や準備、片付け等を手伝っている子もいるが、子供によって手伝いの経験に個人差がみられる。 ・5年生の家庭科で学ぶ前に、手縫いの経験がある児童が少ない。 ・6年生の家庭科で目的意識をもって作品作りに取り組んでいる児童と、できていない児童の差がある。	・家庭の仕事の実態を考えさせると共に、それぞれが行っている仕事を発表し合う等して、自分ができる仕事を考え、実践していこうという気持ちを育てる。 【学び】【いのち】【地域】 ・Chromebook や実際の作品を用いた作品展示会を行うなどして出来上がった達成感も味わえるようにする。 【学び】 ・見通しをもたせ、「こうやったらいいよ！」と励まして指導する。 ・調理器具の使い方、お茶を入れる、ご飯、みそ汁、おかず作り等の順序やポイントを習得するために、写真や動画等を使い、具体的なイメージを膨らませる。コロナ対策を万全に行った上で、調理実習、または家庭の協力を得ながら、家庭学習で安全に楽しく調理を行う。美味しく出来上がるように、材料や分量を栄養士に相談する等して工夫していく。 【学び】【いのち】【地域】 ・手縫いでは、教科書のQRコードを読み取らせて「本返し縫い」「半返し縫い」などの動画を見せて学習させる。 【学び】 ・5年生の1学期より基礎的な縫い方を習得したのち、手縫いでの小物作り、ミシン縫い等順を追って学習を行う。 ・製作の目的や相手への思いを最後まで意識して活動ができるように、児童の実態を踏まえながら、実物見本やICT機器などを活用し、個々の思いや工夫を生かせるようにする。 【学び】 ・6年生は実態に応じて、実習は家庭科室・座学は教室と使い分けることで児童が集中して学習に取り組む環境を作る。

体育	【授業】 ・体育の授業は好きな児童が多い。(体力テストの「Q5. 体育の授業は楽しいと思いますか。」において、「思う」「やや思う」と665人の児童が回答。) ・めあてをたて、それにあった練習方法などを選ぶことができる児童が増えてきている。 ・運動する機会が減り、技能の低下が見られる。特に水泳運動や器械運動の技能の低下が大きい。(暑さによって外遊びをする機会が減っていることが一因として考えられる。) 【体力テスト】 ・昨年度は、体力テストにおいて「ソフトボール投げ」の記録が低かったが、今年度は記録が伸びた。 【体力向上】 ・休み時間に外遊びをする子が減っている。 【熱中症対策】 ・水泳指導において、熱中症対策のために、1時間単位の学習時間を設けている。	【授業】 ・引き続き、楽しい体育学習を目指す【学び】 ・地域の方などから指導を受ける場面を設ける。【地域】 ・「作戦カード」や「学習資料」「学習者用端末」などを今後も授業の中で活用していく。【学び】 ・水泳指導の機会を増やすために、1, 2時間目の指導時間を分けるなど、水泳指導の時間割を工夫する。【いのち・学び】 【体力テスト】 ・体育委員会を中心に、休み時間も行えるよう用具を設置したり、体育委員会の児童が低学年の児童に教えたりすることで記録を向上させることができた。体力の向上に向けて、日常的に取り組んでいきたい。【学び】 【体力向上】 ・持久走月間やなわとび月間などの体力向上のための取り組みを行う【地域】 ・委員会から休み時間に外遊びをするのを、放送やポスターなどで呼びかける。【学び】 【熱中症対策】 ・熱中症対策など、授業内や休み時間に適切な休憩・水分補給を行い安全に運動する。【いのち・学び】 ・今後も、熱中症対策のために、1時間単位の学習時間を設けていく。【いのち・学び】
道徳	・はきはきとした気持ちの良い挨拶ができるが、言葉遣いや話の聞き方、食事の所作などは、個人差が大きい。 ・家族など日頃世話になっている人々に感謝し、進んで役に立としてしている。 ・すすんでみんなのためにはたらいっている。 ・好き嫌いなく、だれとでも接しようとする気持ちがある一方、折り合いが合わず、友達ともめてしまうことが見受けられる。 ・自分の主張ばかりし、自分さえよければよいという考えの児童がいる。 ・昆虫や動物に興味をもち、大事にしようという意識をもっている児童が多い。 ・社会科や外国語科での学習によって、他国への関心や理解を意欲的に行っている。 ・開校150周年記念を通して、先輩たちが残してきた良い伝統を受け継ぎ、児童会活動等を積極的に行っている。 ・生活習慣がきちんと身に付いていない児童がいる。	・一人一人が基本的な挨拶の仕方や話の聞き方などについて、具体的な状況のもとで実感を持って理解し、実践に結び付けられるような指導を行う。【いのち】【学び】 ・家庭と連携し、児童が手伝いをする機会を増やし、「家族やみんなの役に立っている」という実感を味わわせる。【地域】 ・学級を社会として位置づけ、差別や偏見なく関わりをもつよう意識を育てる。【学び】【地域】 ・お互いの考えを知り、認め合う態度を育てる。【いのち】 ・日々の学習の中で生物・昆虫と触れ合う機会をつくり、どの児童にも大事にする気持ちをもたせられるよう支援する。【いのち】 ・英語活動や社会科の授業を中心に異文化に触れさせる機会を意図的に設ける。【学び】 ・さまざまな集団での活動を通して、集団を支えているのは自分たち自身であることに気づかせるとともに、集団における自分の役割を自覚して責任を果たそうとする態度を育てていく。【学び】【いのち】 ・日々の学校生活や他教科との関連を意識し指導する。【学び】【いのち】【地域】

外国語	・英語とローマ字を混同し、英語読みをカタカナ読みしてしまうことが多く、文字と音が十分に連動していない。 ・学習内容と実際の日常生活がリンクしていないケースが多いため、身近な地域に目を向ける必要がある。 ・自尊感情や他者を思いやる心情について、しっかり育っている児童も多いが、育ち切れていない児童が複数いることが課題である。 ・自分が言語活動で取り入れた表現は覚えているが、友達の言っている単語を理解できずボキャブラリーの乏しさが目立つ。 ・正しい字形で四線を意識してアルファベットを書くことが難しい6年生が多い。 ・外国語で会話することに自信がもてない児童がいる。	・帯活動としてフォニックスの学習を行い、単語の始めの音に慣れるようにする。また、十分に話す・聞く活動をしてから書く活動を取り入れる。【学び】 ・地域の情報をほかの場所に住んでいる人に発信する活動を通して、自分の住んでいる日野市や東京都に目を向ける機会を増やす。【地域】 ・学期に一度ある Mimmy アドベンチャーを通して、海外の人と実際に交流する中で、多様な文化を感じられるようにする。また、言語活動においては聞き手にとつての聞きやすさを意識するよう指導する。【いのち】 ・かるたゲームや学習端末を用いて楽しく単語を覚える。また、言語活動では友達とのやりとりを多く取り入れ、多様な単語を覚えられるようにする。【学び】【いのち】 ・帯活動でアルファベットを書く活動を入れ、字形を整え、ヘボン式で記名ができることを目指す。【学び】 ・基本的な表現の定着のために、単語や英文の反復練習を行う。練習した表現を用いて児童同士のインタビュー等、言語活動を充実させる。【学び】
特別活動	＜低学年＞ ・教師が主導となり学級会を行っており、合意形成について学んでいる。 ・係活動と当番活動を分けて取り組んでおり、特別活動の意味や効果を実感できるようにしている。 ＜中学年＞ ・児童主体の学級会を行っているが、合意形成を行う上で、自分本位の意見が多くなってしまふ。 ・学級活動を通して、学級で交流することの良さを実感することができている児童も多い反面、うまく参加できない児童もいる。 ＜高学年＞ ・児童主体の学級会を行っているが、話し合いの基本が定着できていない学級も多い。 ・児童の主体性が低く、教師の指示を待って動く傾向にある児童が多い。 ・学級会などの話し合いの経験が少なく、互いを尊重したり、折り合いを付けたりすることに慣れていない児童が多い。 ・係活動やお楽しみ会などでは、「今までに経験したことがあること」にすぎる傾向が強く、創意工夫を求められる活動が苦手である。 ＜クラブ・委員会・たてわり班等＞ ・6年生は最上級生として1年生の面倒をある程度見ている一方で、全体的に異年齢の結び付きが少ない。 ・委員会活動において、自分たちで学校をよりよくしようという意識が少しずつ付いてきた。 ・クラブ活動では、各々のやりたいことを実現することができるように、クラブリーダーを中心に意欲的に行動している児童が多い。 ・たてわり班活動では、活動の時間を確保したことにより、交流が深まった。6年生の児童は、創意工夫することが苦手で、いつも同じ活動をする傾向にある。	＜低学年＞ ・1年生から学級会を定期的に行うことを意識して指導し、話し合い活動が積み重なっていくようにする。【学び】 ・当番活動で学級のために働くことの大切さを実感させながら、係活動で創意工夫する機会を増やしていく。【学び】 ＜中学年＞ ・教師の助言を入れながら、できるだけ児童中心で話し合い活動を行うことができるようにする。【学び】 ・係活動で創意工夫して取り組む機会を設けて、学級を自分たちで創り出すことの喜びを実感させるようにする。【いのち】 ＜高学年＞ ・学級では、多様な意見を生かして合意形成する学級会や、児童の創意工夫を生かした係活動を展開し、自発的・自治的な活動を積み重ね、主体性を育成する。【学び】【いのち】 ・朝の時間のたてわり班遊びに加え、スポーツテスト、ほほえみ集会などの活動にたてわり班を活用する。それにより、活動で上級生には思いやりの気持ち、下級生にはあこがれの気持ちを育てる。【学び】【いのち】 ＜クラブ・委員会・たてわり班等＞ ・クラブ活動では、児童の主体的な計画・運営をサポートしていくことで、主体性や自己肯定感が育つ。【学び】 ・児童会活動では、学校の課題を考え、児童が主体となって改善策を企画・立案し、社会参画の意識を醸成する。【いのち】【地域】 ・学校行事に児童のアイデアを入れ、企画の段階から関わる機会を設け、自分たちの行動によって学校生活を変えることができるという自己有力感をもたせられるようにする。【学び】【地域】 ・たてわり班活動では、活動の時間や取り組み方を工夫し、関わる時間を増やすことで、異学年の交流を促す。【いのち】

総合的な学習	<3～6年生> • 課題を見付け調べることは、好んで取り組む。 • 地域のよさに気付いていない子が多い。 • 表現の手法が乏しい傾向にある。	<3～6年生> • 発達段階に応じて地域に関する既存知識や身の回りの人から聞いたことを基に課題を見付けることができるようにする。【学び】 • 低学年の生活科で公園巡り、地域探検をし、地域のよさに触れ、3年生では地域安全マップを作ったり、高幡不動尊や梨園について調べ学習をし、より地域に根差した学習をし、地域のよさに気付かせる。【地域】 • Chromebook、新聞、模造紙などさまざまなまとめ方を経験できるようにする。また、興味をもった児童同士で調べたり、一人で追及したり、学習形態を選ぶようにする。 【地域】【いのち】 • 自分の地域について知っていること、困っていること、改善していきたいこと等SDGsの視点を入れ、明確にする。【地域】【いのち】 • 地域の自然や産業文化について調べたり、取材したりしたことを、発達段階に応じて表現する方法を工夫し、自分も地域の一員であることできっかけをもち、地域の中でできることを考え実行しようとする意欲を高めるようにする。【地域】【いのち】
--------	---	---